

大学生と TOEIC

—スコアの活用状況と TOEIC に対する学生の意識—

University Students and TOEIC

— The Uses of TOEIC Scores and Students' Assumptions for the test —

中村学園大学 流通科学部

徳 永 美 紀

I. はじめに

国際化、IT 化が進む中、コミュニケーションや情報収集の道具として、英語は必要不可欠なものになりつつある。その重要な道具をどれだけ上手く使いこなせるかの基準として多くの企業や学校で注目されているテストが TOEIC (Test of English for International Communication) (ETS 2007b) である。TOEIC はアメリカで SAT (全米大学入学共通試験) などを開発している ETS (Educational Testing Service) (ETS 2007a) によって作成されている世界共通のテストで、約60ヶ国で実施され、世界で年間約450万人が受験している。TOEIC 運営委員会が所属する国際ビジネスコミュニケーション協会 (以下 IIBC) (IIBC 2007a) によると、日本国内での TOEIC の受験者は年々増加しており、2006年度は前年度から2万7,000人増の約152万6,000人であった。

平成18年5月から、TOEIC は「より現実のコミュニケーションに即した実際的なテストとなるべく」リニューアルされ、IP と呼ばれる TOEIC 団体特別受験 (以下 TOEIC IP) でも、2007年度の4月から新 TOEIC が導入された (ETS 2007e)。新 TOEIC では、比較的簡単であったリスニングのパート1の問題数が削減されただけでなく、イギリスやオーストラリア等、アメリカ以外の発音が導入されたり、リスニング、リーディングともに問題が長文化されたり

など、テスト自体は難しくなったと考えられる。実際、TOEIC 運営委員会が第1回新 TOEIC 公開テスト後に受験者約2,000人を対象に行った調査では56.8%が「とても難しくなった」又は「やや難しくなった」と答えている (ETS 2007e)。しかし、これまでの TOEIC テストとの結果にズレが生じないように、スコアが調整されている。TOEIC は合否ではなく、リスニング5点から495点、リーディング5点から495点、合計10点から990点のスコアで結果が表示される。英検 (STEP 2007) など合否で結果を出す試験の場合、合格基準が65%であれば、65%正解でも100%正解でも同じ級の保持者となるが、スコア表示である TOEIC では、習熟度をより明確に示すことが可能であると言えよう。

上記152万6,000人の受験者のうち、約38万人は各種学校で行われている TOEIC IP の受験者であり、そのなかでも大学生は27万2,000人と最多である。公開テストを受験した大学生18万8,000人と合わせると、2006年1年間で46万人の大学生が TOEIC を受験したことになる (IIBC2007a)。文部科学省のデータによると、2006年5月の時点での全国の大学生の数は286万人であるので (文部科学省2007)、大学生の約16%が TOEIC を受験したことになる。

II. TOEIC スコアの活用状況

TOEIC は、学生や社員の英語力を判断する

為に、多くの学校や企業が採用しているテストである。2006年9月から10月にかけて TOEIC 運営委員会が全国1,752校の大学院、大学、短期大学、高等専門学校を対象に行った調査 (IIBC 2007b) によると、推薦入試などの入学試験で TOEIC を活用している大学は712校中242校 (34%)、大学院では578校中128校 (22%) となっており、TOEIC のスコアに応じて単位認定を行っている大学は289校 (41%) であった (表1)。入試でのスコアの活用方法や、単位の条件となるスコアは各大学によって様々であり、特に大学院受験においては、TOEIC IP のスコアを受け入れない場合も多い。同じく TOEIC 運営委員会が行った506企業を対象としたアンケートによると、「TOEIC スコアを社員採用時に考慮するか」という問いに対して、55.7%の企業が「考慮している」、17.6%が「将来は考慮したい」と答えている (IIBC 2007c)。

TOEIC を採用する大学や企業が増えるに伴い、英語教育関係者の中には「TOEIC が本当に学生の英語力を反映するのか」、「なぜ他のテストではなく TOEIC なのか」、「大学の英語教育と試験対策は別であるべき」などの意見や疑問も生じている。しかし、上記のデータを見る限り、現在の日本の大学生の多くにとって TOEIC が重要なテストであること確かであろう。そこで、大学生自身は TOEIC に対してどんな考えを持っているのかを調査することにした。

Ⅲ. アンケート対象者

アンケートは4つの大学に所属する合計126名の大学生を対象に行った (表2)。全てのアンケートは無記名で行われ、学生が担当教員の TOEIC 対策に関する考えや TOEIC 指導経験を知る前の状況を調べる為に、大学C以外では授業初日、大学Cでは授業が始まって1ヶ月以内に実施した。大学Aでは毎学期 TOEIC IP の受験が義務とされており、未受験者は単位修得が出来ないことになっている。表2における大学Aの1年生及び3年生の平均スコアは、アンケートの行われた学期の最後に行われた TOEIC IP の結果である。大学Bでは毎年学年末に TOEIC Bridge IP (ETS 2007d) の受験が必修となっており、その結果が後期の成績の30%に影響する。大学Bの学生の TOEIC の平均スコアは、ETS のデータ (ETS 2007c) に基づいて TOEIC Bridge スコアから換算したものである。大学Cの学生は入学直後、習熟度別クラスのためのプレースメントテストとして TOEIC を受験した。これらの学生の平均スコアは担当教員が大学全体の平均点と習熟度別クラスのレベルから概算したスコアである。大学Dの学生はプログラム開始前に TOEIC IP を受験した。この TOEIC プログラムは、正規授業外の特別プログラムで、学年もレベルも様々であり、20人の内1、2年生は1名ずつの2名で、残りは3年生5名、4年生4名、大学院生が7名、博士課程の学生が2名である。

	大学院	大学	短期大学	高等専門学校	計
調査実施校数	578	712	400	62	1,752
入学試験活用校数	128	242	58	15	443
単位認定活用校数	調査対象外	289	62	37	388

表1 TOEIC テスト 入学試験・単位認定における活用状況
(大学院・大学・短期大学・高等専門学校)
(IIBC 2007b)

大学	受講クラス	学生数	TOEIC 平均スコア
大学A 1年生	実務英語 (日本人講師)	60	286.7
大学A 3年生	TOEIC 関連ゼミ (日本人講師)	12	318.2
大学B 3年生	英語V (日本人講師)	13	TOEIC Bridge 150 (約 TOEIC 470)
大学C 1年生	英会話 (ネイティブ講師)	21	約425
大学D 混合	TOEIC プログラム (日本人講師)	20	478.9

表2 アンケート対象者

Ⅳ. アンケート内容

アンケートはネイティブ講師のクラスを含め、全て日本語で行われた。質問は以下の10問である。1) 今までに TOEIC または TOEIC Bridge を受験したことがありますか。2) TOEIC は自分にとって重要なテストだと思いますか。3) TOEIC は就職に有利だと思いますか。4) 一般的な英語の勉強をすれば、TOEIC のスコアは伸びると思いますか。5) TOEIC は TOEIC の問題を使った対策が必要だと思いますか。6) TOEIC のスコアを伸ばすのに、必要な能力は何だと思いますか。(複数回答可) 7) TOEIC のスコアを伸ばすのに、一番重要な能力は何だと思いますか。8) TOEIC 対策を教える日本人の先生は TOEIC の受験経験者であるべきだと思いますか。9) TOEIC 対策を教えるネイティブの先生は TOEIC の受験経験者であるべきだと思いますか。10) TOEIC 対策のクラスは日本人又はネイティブの先生ではどちらが効果的だと思いますか。

質問1) から5)、および8)、9) は「とてもそう思う (SA: Strongly Agree)」、「そう思う (A: Agree)」、「そう思わない (D: Disagree)」、「全くそう思わない (SD: Strongly Disagree)」の4択であり、質問6) と7) の選択肢は「リスニング力 (L: Listening)」、「読解力 (R: Reading)」、「語彙力 (V:

Vocabulary)」、「文法力 (G: Grammar)」、質問10) の選択肢は「日本人 (J: Japanese)」、「ネイティブ (N: Native English Speaker)」、「どちらでも同じ (E: Either)」であった。質問8) から10) については、選択質問の後に「それはなぜですか。」という記述式の質問があった。

Ⅴ. アンケート結果

質問1) 今までに TOEIC または TOEIC Bridge を受験したことがありますか。

アンケート実施時点において、大学Aの1年生を除く全ての学生が TOEIC または TOEIC Bridge の受験経験者であった。

質問2) TOEIC は自分にとって重要なテストだと思いますか。

質問3) TOEIC は就職に有利だと思いますか。

TOEIC が自分にとって重要かという質問2) に対しては「とてもそう思う」(26%) と「そう思う」(59%) の合計は85%であるが、TOEIC は就職に有利だと思うかという質問3) では「とてもそう思う」(34%) と「そう思う」(60%) が94%を占める(図1)。この2つの質問の答えには約10%の違いがあり、これは TOEIC が就職に有利だとは知っていても、自分には関係ないと考えている学生がいるからではないかと思われる。

そして、質問2)の結果をグループ別に見てみると(図2)、TOEICスコアの平均が低いグループの方が、平均の高いグループよりも自分にとってTOEICが重要であると考えていない

学生の割合が高いという結果になっている。英語が苦手な学生は英語力を必要とする就職や大学院進学を望んでいないであろうと考えると、自然な結果といえよう。

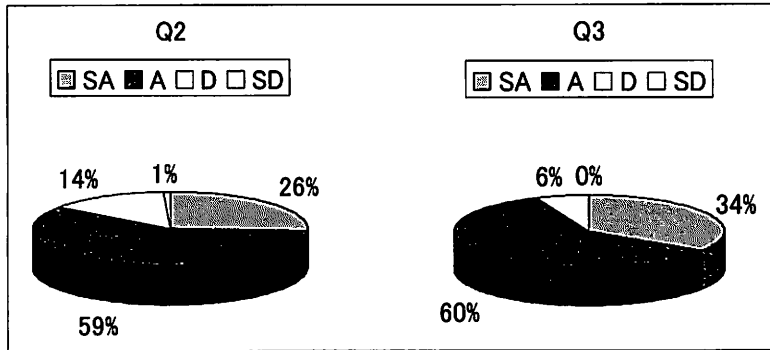


図1 質問2)と3)の答え

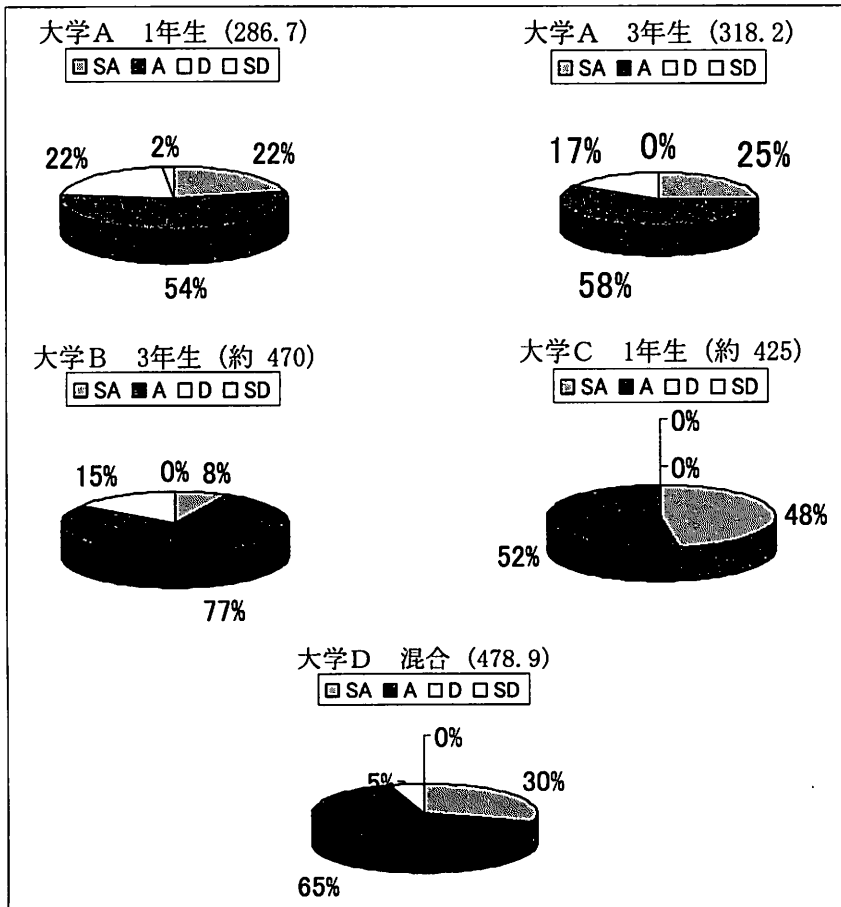


図2 質問2)の答え グループ別

質問 4) 一般的な英語の勉強をすれば、TOEIC のスコアは伸びると思いますか。

質問 5) TOEIC は TOEIC の問題を使った対策が必要だと思いますか。

質問 4) に関しては、126 名中半分以上 (52%) の学生が「そう思わない」(47%) 又は「全くそう思わない」(5%) と答えているのに対し、質問 5) では大多数 (97%) の学生が「そう思う」(72%) 又は「とてもそう思う」(25%) と答えている。

質問 6) TOEIC のスコアを伸ばすのに、必要な能力は何だと思いますか。(複数回答可)

質問 7) TOEIC のスコアを伸ばすのに、一番重要な能力は何だと思いますか。

質問 6) に対しては、複数回答が可能であっ

たのにも関わらず、文法 (G : Grammar) が重要であると答えた学生は 62 名 (49%) にとどまった (図 4)。一番多くの学生 (97 名、77%) が選んだのは読解力 (R : Reading)、続いて語彙力 (V : Vocabulary) (93 名、74%)、そして 3 番目がリスニング力 (L : Listening) (91 名、74%) であり、上位 3 能力を選んだ学生数にあまり差がないことから、学生の文法が大切であるという気持ちが弱いことが表れている。英語の試験で文法があまり重要でないという意見は予想外であったが、大学に入るまでの英語教育において、他の能力に比べて文法は十分勉強してきたと学生が感じているからであるとも考えられる。一番重要であると思う能力を 1 つ選ぶ質問 7) では、52 名 (41%) が語彙力、32 名 (25%) が読解力、29 名 (23%) がリ

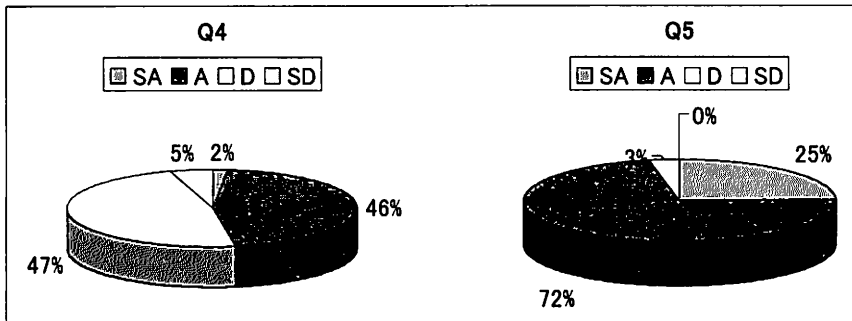


図 3 質問 4) と 5) の答え

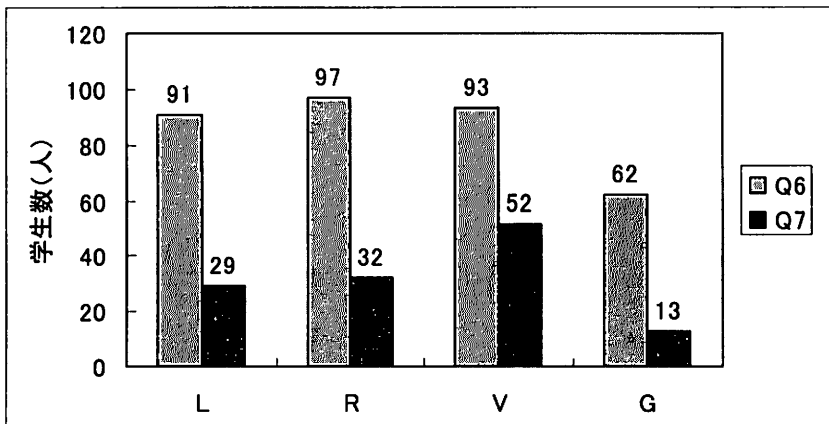


図 4 質問 6) と 7) の答え

スニング力を選んだが、ここでもまた文法を選んだ学生は13名（20%）と最少であった。

平成18年5月に新 TOEIC が導入された際、問題形式だけでなく、スコアレポートも新しくなった。新 TOEIC のスコアレポートでは、それまでのリスニングスコア、リーディングスコア、トータルスコアに Abilities Measured と呼ばれる項目別正答率が加えられた (ETS 2007f)。この項目別正答率は、テストのパート

ごとではなく、正解するのに必要な能力別の正答率が、リスニング4項目、リーディング5項目の合計9項目について表示される (表3)。

そこで、学生が考える重要な能力と、実際の能力別正答率の関係を見るため、著者が TOEIC スコアの詳細を入手することが可能であった大学Aの1年生の質問5)と6)の答えと、アンケート実施後の TOEIC IP の Abilities Measured を比較してみた (図5)。大学Aの

リスニング	1. 短い会話、アナウンス、ナレーションなどの中で明確に述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できる
	2. 長めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で明確に述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できる
	3. 短い会話、アナウンス、ナレーションなどにおいて詳細が理解できる
	4. 長めの会話、アナウンス、ナレーションなどにおいて詳細が理解できる
リーディング	5. 文章の中の情報をもとに推測できる
	6. 表や文章の中の具体的な情報を見つけて理解できる
	7. ひとつの文書の中でまたは複数の文書間でちりばめられた情報を関連付けることができる
	8. 語彙が理解できる
	9. 文法が理解できる

表3 Abilities Measured (ETS 2007f)

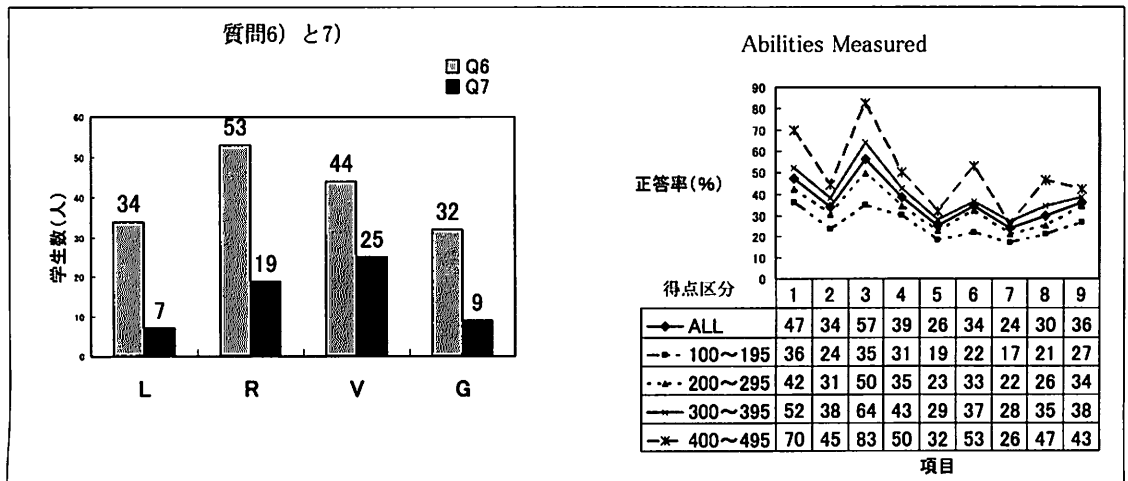


図5 大学A 1年生の質問6)と7)の答えと Abilities Measured の比較

1年生はリスニングと文法よりもリーディングや語彙の方が重要であると答えていたが、実際のスコアを見てみると、全体のスコアが低いにも関わらず、短い会話のリスニング（項目1と3）の正答率は他に比べて良いことがわかる。

質問6）と7）において大学Aの1年生と対照的な答えを出したのが大学Dの学生である（図6）。大学Dの学生が一番重要だと考えたのは質問6）、7）共にリスニングで、2番目は語彙であった。

質問8）TOEIC 対策を教える日本人の先生は TOEIC の受験経験者であるべきだと思いますか。

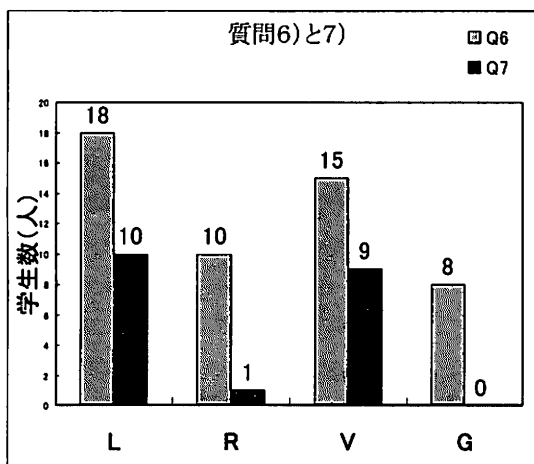


図6 大学Dの質問6）と7）の答え

質問9）TOEIC 対策を教えるネイティブの先生は TOEIC の受験経験者であるべきだと思いますか。

日本人の教員に対しては、92%の学生が「そう思う」（36%）または「とてもそう思う」（56%）と答えたのに対し、ネイティブの教員に対しては76%にとどまっている（図7）。

これらの質問に関しては、「それはなぜですか?」という記述式の質問があり、ほとんどの学生が理由を記入した。4択質問の結果と同じように、比較的日本人の教員に対しての方が学生の意見は厳しいという結果になった。TOEIC 対策を教える日本人の教員は TOEIC の受験経験者であるべきだとする学生の理由の例には以下のようなものがあった。

- 英語の知識も必要だが、解き方のテクニックも大事だと思うから。
- 経験と知識は違うから、教えられても説得力が感じられないから。
- TOEIC の特徴などをわかってから教えないと意味がないと思うから。
- 自分が TOEIC を受験するために勉強したことを生徒に参考までに教えるの良いと思うから。
- 少しでも経験がないと、安心してその先生から TOEIC の勉強をする事ができないし、またその先生も教える事が出来ないと思うから。

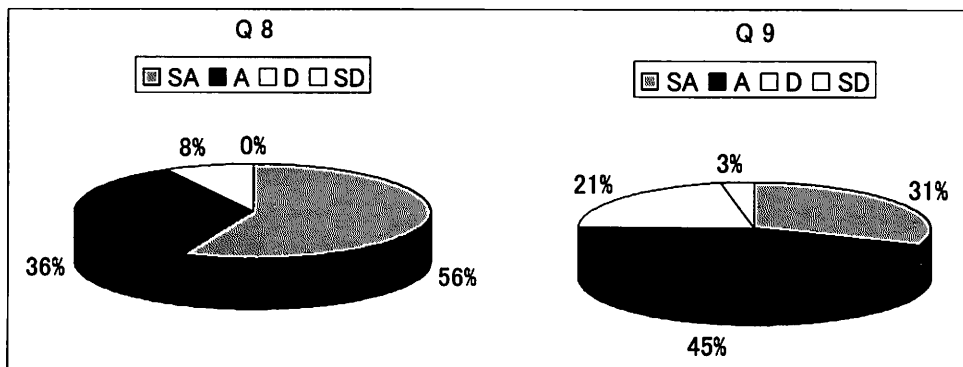


図7 質問8）と9）の答え

- どういう傾向で問題が出ているか先生にも知っててもらいたいから。
 - 教える人が TOEIC を経験していた方が受験時の心構えとか役立つ情報を知っていそうだから。
 - TOEIC と日常会話は違うと思うから。日常会話には引っ掛け問題などもない。
- 日本人の教員について「全くそう思わない」と答えた学生は0名であり、「そう思わない」と答えた学生の中にも理由を書かない学生が多かったが、以下のような理由を述べた学生もいた。
- TOEIC がどんな感じでどんな問題が出るかわかっていれば別に良いんじゃないかと思う。
 - TOEIC の他にもいろいろあるから。
 - しっかり教えられれば関係ないと思うから。
- ネイティブの教員に対しては日本人教員に比べると受験経験は求められていないようだが、「そう思う」または「とてもそう思う」と答えた学生の中には、以下のような強い意見を持つ学生もみうけられた。
- それぞれの問題を理解していないのに、教えられたら困るから。
 - 経験談に基づく対策をおしえるべきであると思います。
 - ネイティブの先生であったとしても、TOEIC を受けてみないことには時間配分などを知ることが困難に思えるからです。
 - 英語を話せるのと教えるのとでは全然違う

と思うから。

- 自分の英語と TOEIC での英語が必ずしも一致しているとは思わないから。
- 母国語に関する知識は曖昧なことがあるから。

ネイティブの教員に対して「そう思わない」または「全くそう思わない」を選んだ学生の中には「ネイティブだから」や「母国語だから」というものが多かったが、以下のような意見もあった。

- TOEIC でいい点をとったから教えるのが上手いとは限らない。
- TOEIC はリスニング力などが必要と思うので、ネイティブの先生はその必要がないと思う。
- TOEIC に必要なものを最初から持っていて教えてくれそうだから。

質問10) TOEIC 対策のクラスは日本人又はネイティブの先生ではどちらが効果的だと思いますか。

この質問については、1年生のグループとそれ以外のグループの回答に差があったため、別々のグラフで示している(図8)。126名中81名は1年生であったが、その中で31%はTOEIC対策のクラスは日本人の教員のほうが効果的であると答えたのに対し、27%はネイティブ教員、そして1番多い42%が「どちらでも同じ」を選んだ。残りの45名中は大学Dの1名の1年生以

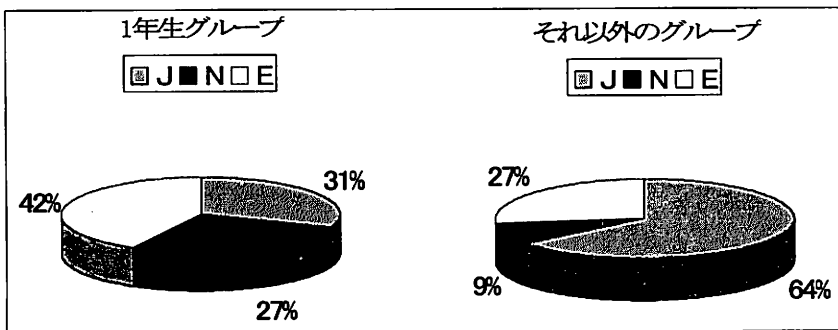


図8 質問10) の答え

外は2年生から博士課程の学生である。その45名の中では、過半数である64%が日本人教員、27%が「どちらでも同じ」を選び、ネイティブ教員を選んだ学生は9%にとどまった。

この質問に対しても「それはなぜですか?」という記述式質問があり、ほとんどの学生が理由を記入した。日本人教員のほうが効果的であるとした学生の理由には以下のようなものがあつた。

- 日本人が苦手な部分を的確に把握してくれそうだから。
 - 勉強の仕方を教えてくれそうだから。
 - 日本人の方が文法的に詳しくそうだから。
 - ネイティブの方がリスニングの力は伸びると思うが、日本語の詳しい説明が聞けないので、日本人講師から学んで、バランスよく向上させる方が良いから。
 - 細かい日本語が通じるからです。聞きたいことが聞けるからです。
 - ネイティブの先生は、日本語が確実に通じる先生でなければ授業以前のコミュニケーションで困ることもある。質問が出来ない。
 - 日本人の気持ちがわかるから。
 - 傾向や対策などは文法などを良く知っている日本人の方に教えてもらいたいから。
- ネイティブ教員のほうが効果的であると答えた学生の理由は、以下の例のように英語で授業を受けることによるリスニング力の向上を期待したものが多かった。
- リスニングはネイティブの先生の方が強いと思うからです。
 - つねにネイティブの英語が聞けて、リスニング力も身に付くから。
 - 教えてもらうときは、やっぱり本場の発音がいいと思うから。
 - より現地の人物と接した方がいいと思う。
 - 英語の発音に慣れておくべきだと思うから。
 - いくら日本人の先生が英語が上手でも、ネイティブにはかなわないと思うから。

最後に、「どちらでも同じ」と答えた学生は以下のような理由を述べた。

- 文法は日本人、ネイティブの先生はリスニングの方が効果が良いと思う為。
- 英語力や教え方はあくまで人種ではなく個人差だと思えるから。
- コツをつかんだ教え方が出来る人であれば、ネイティブも日本人も関係ないと思う。
- 効果的か否かという視点から見たときに、日本人かネイティブかの問題より、指導力と経験が大切だと思うから。
- TOEICにはリスニング、読解、それぞれの力が必要だから。
- 自分次第だと思うから。

VI. 結果から考えられること

TOEICは学生にとって重要であるのか

学生が自分にとってTOEICが重要でないと考えている場合、無理にTOEIC対策の授業を行ったり、TOEICを受験させたりしても、あまり良い結果は望めないであろう。TOEICを採用する大学院や企業が増えているといっても、それによって全ての学生に影響があるわけではない。しかし実際、就職や進学でTOEICが必要であるということに募集要項を見るまで気づかず、それからではスコアアップをはかる時間がないという状況もあり得る。学生は英語専攻であるか、英語関係の就職を望まない限り、英語資格は必要ないと考えがちである。しかし、実際に就職や昇進にTOEICスコアを要求している企業は、IT関係、電気機器関係、自動車関係、食品関係、音楽関係など、英語とは直接関係がないように思われる企業である(Three Sisters 2005)。TOEICスコアを100点伸ばすには200時間以上の学習時間が必要であるという研究結果(Saegusa, Trew 2006内で引用)もあり、就職活動を始めてから勉強したからといって、TOEICスコアが急に伸びることは期待できない。そこで、入学時点からTOEIC

に関する十分な情報提供を行い、学生が将来進もうと考えている分野が英語関連でないとしても、TOEICが必要になる可能性があるということを周知させることが重要ではないかと考えられる。

TOEIC対策はTOEICの問題を使って行うべきか

学生がTOEICの問題を使った方が効果的だと考えているというだけで、それが一番良い方法であるとは限らない。TOEICはコミュニケーション能力を測るテストであり、TOEICの問題を使うことで、空港案内やニュース、天気予報、Eメール、ビジネスレター、求人広告、旅程表、請求書といった実際に英語を使って仕事や旅行をするうえで必要なリスニングやリーディングのトピックを学習することが出来る。しかし、ということは、こういったトピックを扱った一般の英語を学習することでもTOEICのスコアアップにつながるはずである。ただ問題は、日本人の学生が過去問題などテスト形式の問題を解くことで試験の準備をすることに慣れてしまっているということである。大学入試用に各大学は過去問題を出版し、大学センターテストの問題もネットで公表される。書店には資格試験対策用の本をそろえた特別のセクションがあり、その中でもTOEICなどの英語資格のセクションは膨大な量の問題集が並べられている。こうした状況で、アンケートに答えた126名の学生中97%がTOEICの問題を勉強した方が良く考えているのであれば、それを使わないことは学生に不安を抱かせることにつながるのではないか。一般の英語を勉強すればTOEICのスコアも良くなるということを疑う英語教員は少ないであろうが、アンケートの結果からすると、学生はそうでない可能性が高い。TOEIC対策の授業で一般的な英語の教材を使用する場合、またはそれ以外の授業であっても学生がTOEICを受験しなければならない立場である場合には、授業で学習することがどういった能

力を伸ばす為であり、それらの能力がどういった形でTOEICでも出題されているかなどを説明することが必要なのではないかと考えられる。

どの能力を中心に教えるべきなのか

大学Aの1年生のアンケートの結果とTOEIC IPのAbilities Measuredを比べてみた結果、そして大学Aの1年生と大学Dの学生の考えに大きな違いがあるという点からも、学生は自分達が苦手な分野を把握しているのではないかと考えられる。大学Aの1年生のTOEICスコアの平均点は286.7点、大学Dの学生の平均点は478.9点と、これらの2つのグループのTOEICの平均には192.2点もの差があるが、違いはそれだけではない。前にも述べたように、大学Dの学生は1年生1名を除き、残りの19名は2年生以上であり、大学院生、博士課程の学生も混ざっている。学生の年齢が違うということは、今までの英語学習の方法が違う可能性も高い。大学センター試験(大学入試センター 2007)にリスニングが導入されたのは2006年であり、そのことが公表されたのは2003年6月、現在の大学2年生が高校に入学して間もないころである。したがって、現在の1年生はそれ以前の学生よりも多く高校でリスニングを勉強してきたと考えられる。逆に、大学Dは大学自体の難易度も高く、この大学に入る為にはかなりの英語の力が要求される。したがって、大学Dの学生は、リスニング試験導入以前の形式での受験勉強をしっかりとこなしている為、文法やリーディングはこれ以上勉強する必要があまりないと感じ、今まであまり学習する機会がなかったリスニングを伸ばす必要があると考えているのではないか。これらのことを考えると、どういった能力に注目して学習を進めていくかということに関して、学生の意見も取り入れることが必要なのではないかと考えられる。そして、教員が学生のTOEICスコアの詳細を入手出来る環境であれば、新しく加えられた

Abilities Measured の部分に注目し、学生の弱点を知ることで、より学生に合わせた授業が可能になるはずである。

教員は TOEIC を受験するべきか

TOEIC を受験することで教員としての能力が伸びるわけではないし、勿論 TOEIC のスコアが高いほど良い教員とはいえない。しかし、テストを受験するには、その教科の知識だけでなく、受験のコツや時間配分といったテスト対策の知識も必要であり (Hughes 2003)、アンケートの結果を見ると、学生はそういった知識も教員から学ぶことを期待しているようである。対策用教材などを通してテストに関する知識を学ぶことも可能であるが、やはり実際受験することで得られる知識や経験の方が信頼性があるのではないであろうか。著者の授業では出席カードに毎回学生がコメントや質問を記入するということを続けているが、TOEIC 対策の授業では TOEIC に関する質問も多く、過去に以下のような質問があった。

- 新 TOEIC のほうが難しいと思いますか？
- 時間内に全問解くことが出来ないのですが、どうすれば良いですか？先生は時間内に解けますか？
- TOEIC IP と TOEIC の違いは何ですか？両方とも就職に使えるのですか？
- TOEIC IP のほうが良いスコアが出るのですが、どうしてだと思いますか？
- 履歴書には何点から記入出来ますか？
- パート 5 よりパート 7 を先に解いた方が良いというのは本当ですか？
- 問題用紙になにも記入してはいけないのは本当ですか？
- トイレに行く時間はありますか？
- TOEIC にスピーキングが加わるというのは本当ですか？

学生が TOEIC 対策の授業を受講していたり、TOEIC の受験を大学側から義務化されている

場合、こういった質問の答えを教員に求めるのも無理はないであろう。教員は試験対策ではなく英語を教えることが本来の職務であるべきだが、学生が必要とする情報を提供することも重要なのではないであろうか。そして、大多数の学生が教員、特に日本人教員に TOEIC 受験経験があった方が信頼出来ると考えている以上、1 度は受験することも必要ではないであろうか。

教員の母国語は関係あるのか

1 年生以外のグループが日本人教員を選んだ理由として考えられる点は、大学で何年間かネイティブ教員の授業を受講してきた学生達が、英語で英語を勉強するというのを難しく感じてきたのではないか、ということである。逆に、先にも述べたように、1 年生は高校の頃からリスニングの勉強量が多かった可能性も高く、ネイティブ教員の授業を受けることに対する不安が少ないのかもしれない。「どちらでも同じ」を選らんだ学生が述べているように、良い教員であるかを判断する上で、教員の母国語は 1 番重要な要素ではない。しかし、日本人教員であること、ネイティブ教員であることにはそれぞれ利点と弱点があり、学生にとって理想的な状況というのは両方の教員からバランス良く学ぶことが出来ることである (Medgyes 2001)。大学によっては週 2 回の講義を日本人教員とネイティブ教員が 1 コマずつ担当しているところもある。しかし、そうでない場合、学生がどういった理由でそれぞれの教員の方が効果的であると考えているのかを知ることは、教員が日本人である、又はネイティブであるということだけで欠けている部分を補う努力をするためにも、重要な情報ではないであろうか。

VII. おわりに

近年まで、大学の英語教育と TOEIC の関わりはそれほど深くなく、TOEIC を受験する為に英会話学校などに通う学生も多かったように

思える。しかし、現在学生の英語能力を判断するために TOEIC を使う大学は多く、2006年度に TOEIC IP を実施した大学は479校に上る (IIBC 2007a)。学生や大学にとって TOEIC が重要になるにつれ、英語教員に対するプレッシャーも強まってきたように感じる。教員の間には外部テストに頼ることや TOEIC 自体への疑問もある中、現在の日本の学生が大学や将来の就職先から TOEIC スコアを要求されていることは事実である。アンケートの結果によると、学生は自分にとって重要かどうかは別にしても、TOEIC が就職に有利なテストであり、TOEIC のスコアアップを目指すには TOEIC の問題を使った勉強が必要だと考えているようである。そして、教員の TOEIC に関する知識や経験に対しても、学生は強い期待を持っている。学生の考えが必ずしも正しい訳ではないが、学生がどういった考えをもって授業を受けているのかを知ることは、教員がより良い授業を行う為、そして大学がより良いカリキュラムを作っていく為に必要なことではないだろうか。

参考資料

- ETS (2007a). *About ETS*. Retrieved December 10, 2007, from <http://www.ets.org>
- ETS (2007b). *TOEIC テストについて*. Retrieved December 7, 2007, from <http://www.toeic.or.jp/toeic/about/>
- ETS (2007c). *TOEIC Bridge と TOEIC テストの比較*. Retrieved December 7, 2007, from <http://www.toeic.or.jp/bridge/about/compare/>
- ETS (2007d). *TOEIC Bridge について*. Retrieved December 7, 2007, from <http://www.toeic.or.jp/bridge/about/>
- ETS (2007e). *TOEIC Square Report 新 TOEIC テストに関するアンケート調査*. Retrieved December 19, 2007, from http://www.toeic.or.jp/square/guide/sq_report/07.html
- ETS (2007f). *公式認定証の形式*. Retrieved December 10, 2007, from http://www.toeic.or.jp/toeic/guide04/guide04_02_02.html
- Hughes, A. (2003). *Testing for language teachers*. Cambridge: Cambridge University Press.
- IIBC (2007a). *TOEIC テスト Data & Analysis 2006*. Tokyo: IIBC
- IIBC (2007b). *TOEIC テスト入学試験・単位認定における活用状況～大学院・大学・短期大学・高等専門学校～*. Tokyo: IIBC
- IIBC (2007c). *TOEIC Style Book 数字で見る実社会での TOEIC*. Tokyo: IIBC
- Medgyes, P. (2001). *When the Teacher is a Non-native Speaker* In M. Celce-Murcia (Ed.), *Teaching English as a Second or Foreign Language* (pp.429-442). Boston: Heinle & Heinle
- 文部科学省 (2007). *大学・短大・専門教育に関すること*. Retrieved December 10, 2007, from http://www.mext.go.jp/a_menu/01_d.htm
- STEP (2007). *英検とは*. Retrieved December 7, 2007, from <http://www.eiken.or.jp/about/index.html>
- 大学入試センター (2007). *センター試験について*. Retrieved December 7, 2007, from <http://www.dnc.ac.jp/index.htm>
- Three Sisters Inc. (2005). *TOEIC Club - TOEIC スコアを求める企業-*. Retrieved December 6, 2007, from <http://www.toeicclub.net/requirement.html>
- Trew, G. (2006). *A Teacher's Guide to TOEIC Listening and Reading Test - Preparing Your Students for Success -*. Tokyo: Oxford University Press.